

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	3 単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	言葉を学ぶ（書き手の意図をつかむ、文章の展開を把握する、対比を読み取る、コミュニケーションと言葉、日常の中の文章、言葉の働きをとらえる、書き手の考えを比較する、根拠を読み取る、社会の中の文章） 言葉を使う（話し言葉の技術、書き言葉の技術）				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート）	・記述の確認（ノート、ワークシート、レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査		
教科書、教材など	大修館書店出版『現代の国語』、準拠ワーク、常用漢字ダブルクリア、デジタル国語便覧				
業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価
1	4	明日をひらく	・白紙 ・考える技術——考えさせない時代に抗して ・伝える・伝え合う テスト・テスト直し・解説	3 2	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	中間考査 要点をつかむ	・水の東西 ・「動」への変化 ・伝わるように話す ・わかりやすく書く ・意見を書く テスト・テスト直し・解説	2 2	・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける	
	6	的確に伝える	・文章の論理をとらえる ・動的平衡としての生物多様性 ・自然と人間の関係をとおして考える ・工夫して話す ・資料と文章の関係を読む 「安くておいしい国」の限界 ・インターネット時代の音楽産業 テスト・テスト直し・解説	3 3 2 1 2	・叙述を的確にとらえる。 ・具体と抽象を理解し、文章の要点を的確にまとめる。 ・相手に正確に伝わるようにわかりやすく書く。 ・文章の種類をふまえて、叙述を基に内容を的確にとらえる。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
2	7	期末考査		2		
	8	意見を示す		1		
3	9	論理をとらえる		2		
	10			3	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目して、文章の論理をとらえる。	
	11			2	・相手の興味を引くように、構成や展開を工夫して話す。 ・声の強弱や話す速度、間の取り方などを意識して話したり聞いたりする。	
	12	中間考査		1		
3	1	魅力的に伝える	・目的に沿った質問をする ・状況に応じた通信文を書く ・文章を比較して読む 「美しさの発見」について (脳は美をどうとらえるか) ・空気を読む ・「個人」から「分人」へ テスト・テスト直し・解説	3 2 2 3	・さまざまな表現の工夫を知り、自らの表現に生かす。 ・読み手が共感できるように、表現を工夫して書く。	
	2			2		
	3	期末考査		2		
3	1		・説得力のある資料をつくる ・根拠を吟味して読む 贅沢を取り戻す ・言葉についての新しい認識 テスト・テスト直し・解説	2 2 3	・質問の目的を明確にする。 ・目的に沿った質問をして知りたかったことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。 ・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	
	2			2		
	3	学年末考査		2		
備考:			合計	70		

教科名		国語		科目名	言語文化		単位数	2 単位
対象学年		1年総合・調理		履修形態	必修		科目コード	
科目の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
学習内容の概要		言葉を学ぶ（書き手の意図をつかむ、文章の展開を把握する、対比を読み取る、コミュニケーションと言葉、日常の中の文章、言葉の働きをとらえる、書き手の考えを比較する、根拠を読み取る、社会の中の文章） 言葉を使う（話し言葉の技術、書き言葉の技術）						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		知能・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
評価方法		・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート）		・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート）		・記述の確認（ノート、ワークシート、レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査		
教科書、教材など		数研出版『新編現代の国語』、準拠ワーク、常用漢字ダブルクリア、デジタル国語便覧						
業 形 態		一斉授業						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時 間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評 価
1	4	書き手の意図をつかむ	目指す世界の地図を作る	3	筆者の意図や表現上の工夫について自分の考えを書く。			定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
		【中間考査】	テスト・テスト直し・解説	2				
	5	【チェックポイント1】	ものづくり わかりやすく話す	3	文章内容に関連した具体例を考え、発表する。			
	6	文章の展開を把握する	時間とは何か 地球を旅する水の話	3	自分が大切にしているものについてスピーチをする。			
		【期末考査】	テスト・テスト直し・解説	3	文章の構成を接続語に注意してまとめる。			
	7	【チェックポイント2】	テスト・テスト直し・解説	2	文章内容を自分にひきつけて考え、検討内容を発表する。			
	8	対比を読み取る	水の東西 里山物語	2	発表を聞き、内容や構成に注意しながら聞き取った情報をメモにとる。			
	9	コミュニケーションと言葉	世間話はなぜするか	2	文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。			
		【チェックポイント3】	適切な書式で通知する	3	特定の言葉について文章の内容を踏まえて説明する。			
	10	【中間考査】	テスト・テスト直し・解説	2	文章内容を踏まえて、具体的な会話場面における話し手の意図について考える。			
	11	日常の中の文章	写真や文章で説明する 広告コピーを書く 表現の工夫を読み取る（新聞）	2	手紙・メールの書式の違いを踏まえて通知文を書く。			
	2		言葉の働きをとらえる	語感トレーニング	2	提示された写真を文章で説明する。		
12		【期末考査】	テスト・テスト直し・解説	2	自分の高校を紹介するためのコピー文を書く。			
1		書き手の考えを比較する	コインは円形か 科学と非科学	2	学校行事を伝える記事を書く。			
		【チェックポイント4】	必要な情報を整理して書く	2	同じような意味の、語種が異なる語を複数挙げて、語感の違いについて話し合う。			
2		根拠を読み取る	「差」という情報 「わらしべ長者」の経済学	2	自分の認識のあり方について振り返り、具体例を挙げながら話し合う。			
		【チェックポイント5】	目的に応じて情報を聞き取る	3	筆者の主張に対する自分の意見を根拠を明確にして述べる。			
3		社会の中の文章	課題を発見し解決策を発表する（SDGs 解説文）	1	目的を意識して利用規約を作る。			
		【チェックポイント6】	根拠の妥当性を説明する	2	文章に関するテーマで意見文を書く。			
		【学年末考査】	テスト・テスト直し・解説	2	筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。			
		話し言葉の技術	スピーチ ディベート・討議	2	インタビュー動画を視聴し、その内容を文章にまとめる。			
		書き言葉の技術	プレゼンテーション 文章構造を理解する 要約する 比較する 意見文を書く	4	集めた情報と検討内容を資料にまとめ、発表する。			
3					2	客観的な根拠や妥当性のある理由づけを考えて書く。		
				2				
				1	聞き手への伝わりやすさに注意してスピーチをする。			
				1	反論を想定して発言したり、論理的に考察を深めたりしながらディベートを行う。			
				1	調査したことをまとめ、プレゼンツールを使用して発表する。			
				2	文章構造を工夫しながら文章を書く。			
				1	文章を指定字数で要約する。			
				1	複数の情報を比較しながら仮説を立て文章にまとめる。			
				1	複数の情報を関連付けながら意見文を書く。			
				1				
	備考：		合計	70				

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	3 単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	古文編（古文に親しむ、随筆を楽しむ、物語の広がり、旅への思い） 漢文編（漢文に親しむ、現代に生きることは、古人に学ぶ、漢文を楽しむ） 近現代編（ことばと出会う、表現を味わう、文化を見つめる、物語を受け継ぐ、ことばを生きる、近代文学に触れる）				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート） ・定期考査	・記述の確認（ノート、ワークシート、レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査		
教科書、教材など	数研出版『言語文化』、準拠ワーク、体系古典文法、体系漢文、デジタル国語便覧、辞書（国語、古語、漢文）				
業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価
1	4	[古文] 説話	言語文化と古文 宇治拾遺物語 児のそら寝・絵仏師良秀	1 6	・言語と文化の関係について読み取る。 ・古文の文体や仮名遣いに慣れる。 ・作者の伝えたいことをとらえる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	[漢文] 入門 故事	言語文化と漢文 入門一・入門二 漁夫之利・矛盾・狐借虎威 朝三暮四	2 1 4 6	テスト・テスト直し・解説 ・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 ・漢文の訓読のきまりについて理解し、その口調やリズムに親しむ。 ・音読して漢文訓読のリズムに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・故事成語の意味や日本への影響を理解する。	
2	6	[近現代] 近代小説(一)	言語文化と近現代 羅生門 『今昔物語集』巻第二九第一八	1 6	・言語と近現代文化の関係について読み取る。 ・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。	
	7	[古文] 随筆(一)	徒然草 つれづれ・神無月	2 6	テスト・テスト直し・解説 ・作者の心情の変化や感動の内容を読み取る。	
3	8	[漢文] 史伝	伊勢物語 芥川・東下り	6	・物語の内容を読み取り、登場人物の関係を理解する。 ・歌に込められた登場人物の思いをとらえる。	
	9	[近現代] 現代小説(一)	管鮑之交・先従隗始	4	・話の展開をとらえ、作者が話に込めた意図を読み取る。	
4	10	[古文] 物語 随筆(二)	サラバ! テスト・テスト直し・解説 竹取物語 枕草子	4 2 4 4	・登場人物の心情の変化を読み取る。 テスト・テスト直し・解説 ・自然の情景に対する作者の感覚をとらえる。 ・作者の人物像をとらえる。	
	11	[漢文] 漢詩	中国の詩・日本の詩	4	・漢詩の形式や詩の表現の特徴を理解する。 ・自然・友情・人生をうたった詩を味わい、表現の工夫をとらえる。	
5	12	[古文] 和歌	万葉集・古今・新古今和歌集	2 4	テスト・テスト直し・解説 ・短歌に親しみ、表現の特徴を理解する。	
	1	[近現代] 詩歌	I was bone/短歌・俳句	3	・作品に詠まれている情景や心情を読み味わう。	
6	2	[古文] 日記文学	土佐日記 門出・帰京	3	・旅に出るまでの習わしについて知る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。	
	3	[漢文] 思想	平家物語 祇園精舎・木曾	4	・特徴的な文体のリズムを味わう ・登場人物の会話や行動を整理しどう描かれているか読み取る。	
7	4	[近現代] 近代小説(二)	おくのほそ道	2	・俳諧紀行文の特徴をとらえ、その文学的意義を理解する。 ・古人にとっての旅と人生との関わりをとらえ心情に心を寄せる。	
	5	[近現代] 近代小説(三)	論語・孟子 テスト・テスト直し・解説 城の崎にて 山月記・人虎伝	4 2 4 4	・孔子や孟子の名言に親しみ、その思想と現代との関わりについて考えを深める。 テスト・テスト直し・解説 ・作品の背景をふまえて、内容を理解する。 ・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。	
備考:		合計	105	現代23・古文45・漢文30 書くこと7		

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	2 単位
対象学年	1年総合・調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	現代文編（1ことばと出会う、2表現を味わう、3文化を見つめる、4物語を受け継ぐ、5ことばを生きる、近代文学に触れる） 古文編（1古典に親しむ、随筆を楽しむ、物語の広がり、旅への思い） 漢文編（1漢文に親しむ、現代に生きることば、古人に学ぶ、漢文を楽しむ）				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、ワークシート） ・定期考査	・記述の確認（ノート、ワークシート、レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査		
教科書、教材など	大修館書店『新編言語文化』、準拠学習課題ノート、常用漢字ダブルクリア、デジタル国語便覧				
業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価	
1	4	1ことばと出会う	言葉の森を育てよう	3	・言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 ・日常使っている言葉を見つめ直す。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価	
		1ことばと出会う	季節の言葉と出会う *日本人の季節感→古典との関わり	2	・日本で受け継がれてきた自然観や美意識について、筆者の主張をとらえる。 ・季語に興味をもつとともに、日本独特の自然の味わい方について、自分の考えを深める。		
	5	1 古文に親しむ	“古文への招待 いろは歌	3	・古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ・受け継がれてきた古文を音読し、響きやリズムを味わう。”		
		1 古文に親しむ	児のそら寝	3	・繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。 ・児と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。”		
			中間考査 表現を味わう	2	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。”		
	6	1 随筆を楽しむ	“徒然草 高名の木登り	3	・音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。”		
		1 ことばと出会う	“漢字と仮名の使い分け	3	・日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。 ・表記に興味をもち、調べたり考えたりする。”		
			期末考査	2	テスト・テスト直し・解説		
	7	1 古文に親しむ	十二の「子」文字	2	・誰の発言かに注意し、物語の内容を読み取る。		
		1 漢文に親しむ	訓読のきまり／格言／再読文字	3	・漢字の読みと日本の言語文化についての理解を深める。” ・漢文の訓読のきまりについて理解する。		
	2	2	9 現代に生きることば	守株	2		・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。” ・「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。”
			3 文化を見つめる	足し算の文化	4		・日本文化の特徴について、筆者の主張をとらえる。 ・身のまわりの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。”
10		2 物語を受け継ぐ	“羅生門	7	・小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。”		
11		3 物語の広がり	テスト・テスト直し・解説 “伊勢物語 芥川／筒井筒／あづま下り	4	・登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。”		
		2 現代に生きることば	蛇足	3	・「蛇足」という言葉の意味について、考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。”		
12	4 ことばと生きる	祖母が笑うということ	3	・叙述をもとに、場面の様子や人物の心情を想像しながら読む。 ・文章の展開のしかたや表現のしかたに着目し、文章表現を味わう。”			
		期末考査	2	テスト・テスト直し・解説			
3	1	5 ことばと生きる	ことばは光	3	・筆者の経験や、ものの見方、考え方を的確に読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の経験を振り返り、考えを深める。”		
		2 4 旅への思い	土佐日記 門出／旅の終わり	3	・文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 ・作品の主題と表現の特色を理解する。”		
	3 4 旅への思い	テスト・テスト直し・解説 おくのほそ道 旅立ち	3	・音読して文体の特徴をとらえ、文章の内容を読み取る。 ・文と句の関係に注意して、それぞれの句に詠まれた情景や心情を考える。”			
備考：		合計	70				

教科名	地歴公民	科目名	歴史総合	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標	(1) 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。 (2) 基礎的事項の理解を踏まえ、国際社会に生きる民主的、平和的国家の一員として必要な自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	基本的事項の定着をはかりながら、地理的条件や日本の歴史と関連付けて世界史の流れを理解させる。作業的な学習を取り入れ、生徒自身が主体となり自ら考える態度を養い、歴史的思考力の向上をはかる。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組もうとしているか。	近現代史の理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できているか。	諸資料を活用し、歴史的事象を適切に表現する態度が身に付いているか。	前近代史に基づき、近現代史を理解するのに必要な基礎知識が身に付いているか。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題および定期テストにより評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など	「詳述歴史総合」(実教出版)「詳述歴史総合徹底整理演習ノート」・「詳述歴史総合マイノート」(実教出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

期	月	単元	学習内容(活動・実験・実習等)	時間	単元の目標(具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動	8	1 ヨーロッパの海外進出と市民社会 2 清の繁栄 3 東南アジア諸国間の貿易 4 江戸時代の日本と対外政策 5 江戸時代の社会と生活	観察 発表 課題 ノート 考査
	5			8	6 イギリス産業革命 7 アメリカ独立革命 8 フランス革命とナポレオン 9 ウィーン体制 10 19世紀のイギリスとフランス 11 イタリア・ドイツの統一 12 東方問題と19世紀のロシア 13 アメリカの発展と分裂 14 世界市場の形成	
2	7	[中間考査]	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	8	15 イスラーム世界の改革と再編 16 南アジア・東南アジアの改革と再編 17 アヘン戦争の衝撃 18 揺らぐ幕藩体制 19 開国 20 幕末政局と社会変動 21 新政府の成立と諸改革 22 富国強兵と文明開化 23 近代的な国際関係と国境・領土の画定 24 自由民権運小津の高まり 25 立憲国家の成立	観察 発表 課題 ノート 考査
	8			8	26 帝国主義と世界分割 27 帝国主義期の欧米社会 28 条約改正 29 日清戦争 30 日露戦争から韓国併合へ 31 日本の産業革命と社会問題 32 アジア諸民族の独立運動・立憲革命	
3	9	[期末考査]	第3章 アジアの変容と日本の近代化	8	33 緊迫する国際秩序 34 第一次世界大戦 35 ロシア革命とシベリア出兵 36 大戦景気と米騒動 37 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 38 西アジア・南アジアの民族運動 39 東アジア・東南アジアの民族運動 40 戦間期の欧米 41 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 42 政党内閣の時代	観察 発表 課題 ノート 考査
	10			8	43 世界恐慌 44 ファシズムの時代 45 満州事変と軍部の台頭 46 日中戦争 47 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 48 戦争と民衆 49 敗戦 50 国際連合と戦後世界 51 戦後と占領の始まり 52 民主化と日本国憲法 53 冷戦の開始 54 朝鮮戦争と日本	
	11	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	8	55 冷戦対立の推移 56 植民地の独立と第三世界の出現 57 米ソ両陣営の動揺 58 日本の国際社会復帰と高度経済成長	考査
	12			8	59 石油危機と世界経済 60 緊張緩和から冷戦の終結 61 地域協力の進展 62 日本の経済大国化	
	1	[中間考査]	第4章 帝国主義の時代	8	63 冷戦体制の終結 64 地域紛争と世界経済 65 グローバル化な認識へ	考査
	2			8	63 冷戦体制の終結 64 地域紛争と世界経済 65 グローバル化な認識へ	
	3	[期末考査]	第7章 冷戦と脱植民地化	8		考査
	1			8		
	2	第3編 グローバル化と私たち	第8章 現代の世界	8		考査
	3			8		
		[学年末考査]	第9章 グローバル化と現代世界	6		
備考:			合計	70		

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。</p> <p>(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。</p>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	地理的内容、現代社会的な内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	地理的事象(地形、気候など)を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	ワークノート、プリントの作業など諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界の地理と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。	
評価方法	授業中の取り組み状態や、発問に対する答え方、ノートの内容、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方、答えを探するなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	
教科書、教材など	「高等学校 新地理総合」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院) ※特進のみ 「高等学校 新地理総合ノート」(帝国書院) 「新編 地理資料2022」(とうほう)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	1学期 中間テスト	第1部 地図でとらえる現代世界	12	○緯度、経度、自転、公転など、基本的なことを理解するとともに、世界各地の気候や地形と、地図の種類や用途を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 授業への参加度やノート作成、作業姿勢 資料活用 技能 地図の活用 白地図の作成 思考 判断 表現 レポートの作成・発表 知識・理解 定期考査
			第1章 地図と地理情報システム			
	5	1学期 期末テスト	1節 地球上の位置と時差	14	○世界の地形と領域を理解するとともに、人々の生活が、産業や文化、慣習など、どのように結びついているかを考察する。	
			2節 地図の役割と種類			
	6	1学期 期末テスト	第2章 結びつきを深める現代世界	18	○世界の地域の生活・文化を考察する。 ○地域ごとに考察し、気候や歴史、産業、文化などを理解し、日本との異質性を考察する。 ○地域ごとに気候を学ぶだけでなく、歴史や宗教などの社会環境が、どのように人々の生活に関わっているかを考察する。	
			1節 現代世界の国家と領域			
	7	2学期 中間テスト	2節 グローバル化する世界	12	○世界各地の産業が、その地域の人々の生活にどのように影響しているのかを理解する。	
			第2部 国際理解と国際協力			
	8	2学期 中間テスト	第1章 生活文化の多様性と国際理解	12	○人間活動の中で、地球的課題である環境問題にはどのようなものがあるのかを確認する。 人間活動と環境問題の因果関係を考察する。 環境問題の現状や課題、解決策を理解する。	
			1節 世界の地形と人々の生活			
9	2学期 中間テスト	2節 世界の気候と人々の生活	12	○人口問題や食料問題において、地域ごとに原因が異なったり、現状や対策、解決策などが異なったりすることを理解する。		
		3節 世界の言語・宗教と人々の生活				
10	2学期 期末テスト	4節 歴史的背景と人々の生活	12	○日本国内や自分たちの生活する地域で起こった自然災害や、世界で見られた自然災害の状況、災害の頻度、地形などを考察する。 ○災害が発生した地域、気候などの自然環境との因果関係や、人間活動との関わりを考察する。 ○自然災害に対する対策や、減災への取り組みを理解する。		
		5節 世界の産業と人々の生活				
11	2学期 期末テスト	第2章 地球的課題と国際協力	2	○地域の成り立ちや、生活圏にある施設や文化財などを調査することで、地域の理解を深める。		
		1節 複雑に絡み合う地球的課題				
12	2学期 期末テスト	2節 地球環境問題	2			
		3節 資源・エネルギー問題				
1	3学期 学年末考査	4節 人口問題	2			
		5節 食料問題				
2	3学期 学年末考査	6節 都市・居住問題	2			
		第3部 持続可能な地域づくりと私たち				
3	3学期 学年末考査	第1章 自然環境と防災	2			
		1節 日本の自然環境				
3	3学期 学年末考査	2節 地震・津波と防災	2			
		3節 火山災害と防災				
3	3学期 学年末考査	4節 気象災害と防災	2			
		5節 自然災害への備え				
3	3学期 学年末考査	第2章 生活圏の調査と地域の展望	2			
		1節 生活圏の調査と地域の展望				
備考	合計			70		

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて「公共的な空間」における倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。</p> <p>(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び「公共的な空間」での日本人の生き方などについて考察する。</p>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの内容、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など	東京書籍「公共」(公共 701), 「公共ワークノート」(東京書籍701)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時 間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1部 公共のとびら	1章 公共的な空間をつくる私たち	4	・青年期の発達課題を自己の課題として認識し、生涯における青年期の意義と自己形成の課題とその克服について考察する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	5		2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	6		
	6	中間考査	3章 公共的な空間における基本原理	6	・東西及び日本の思想を通じてよく生きること、他者との関係のなかで生きることの大切さを考察する。	
	7	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち	1章 民主政治と私たち	7	・国家の役割、民主主義、立憲主義、人権保障、日本国憲法により「公共的空間」における公民として生きる意味を考察する。	
2	8		2章 法の働きと私たち	7	・民主政治と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。	
	9	中間考査		7	・法や規範の意義と役割/市民生活と私法/国民の司法参加について学び考察する。	
	10		3章 経済社会で生きる私たち	7	・現代の経済と市場、市場経済における金融の働き、	
				7	財政の役割と持続可能な社会保障制度について学び、考察する	
3	11	期末考査	4章 私たちの職業生活	6	・働くことの意義と職業選択、労働者の権利と雇用、労働問題について学び、考察する。	
	12			6		
	1		5章 国際社会のなかで生きる私たち		・国際社会のルールとしくみ、国際社会と平和主義、	
	2	学年末考査			国際平和への課題、グローバル化する国際経済を学び、考察する。	
	3					
備考:			合計	70		

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章 数と式 第4章 図形と計量	第2章 集合と命題 第5章 データの分析	第3章 2次関数		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	主体的に学習に取り組む	思考・判断・表現	知識・技能		
	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		
教科書、教材など	教科書 改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 問題書 4プロセス数学 I +A (数研出版) 練習ドリル数学 I 標準編 (数研出版) 参考書 Focus Gold 数学 I +A (啓林館)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法		
1	4	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	考查 授業取組 課題 ※以下同じ		
	5		第2節 1次不等式					
	6	1学期中間考査 第2章 集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。			
	7	第3章 2次関数 1学期期末考査	第1節 2次関数のグラフ	30	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
	8		第2節 2次関数の値の変化					
	9	第4章 図形と計量	第1節 三角比	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
	10		2学期中間考査 第2節 三角形への応用					
	11	第5章 データの分析	データの分析	13	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。			
	12						2学期期末考査	
	備考：			合計	105			

教科名	数学		科目名	数学Ⅱ（特進）	単位数	1単位
対象学年	第1学年特進		履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる					
学習内容の概要	第1章 式と証明		第2章 複素数と方程式			
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	主体的に学習に取り組む		思考・判断・表現		知識・技能	
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する		テスト及び課題により総合的に評価する			テスト及び課題により総合的に評価する
教科書、教材など	教科書 高等学校数学Ⅱ（数研出版）、問題書 4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版）、参考書 Focus Gold 数学Ⅱ+B（啓林館）					
授業形態	一斉授業					

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
3	1	第1章 式と証明	第1節 式と計算	9	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㊿
			第2節 等式・不等式の証明	6		
	2	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解	8		
			第2節 高次方程式	4		
3		1学期中間考査	問題演習	8		
備考：				合計	35	

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3単位
対象学年	第1学年総合調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章 数と式 第4章 集合と命題	第2章 2次関数 第5章 データの分析	第3章 図形と計量		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	主体的に学習に取り組む	思考・判断・表現		知識・技能	
	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考えに基づいて判断しようとする。	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する	
教科書、教材など	教科書 改訂版 最新 数学 I (数研出版) 副教材 教科書傍用 プラクティスノート 数学 I (数研出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	考查 授業取組 課題 ※以下同じ
	5		第2節 1次不等式			
	6	1学期中間考査 第2章 2次関数 1学期期末考査	第1節 2次関数のグラフ	30	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	7					
	8		第2節 2次関数の値の変化			
	9					
	10	第3章 図形と計量 2学期中間考査	第1節 三角比	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	11		第2節 三角形への応用			
	12	2学期期末考査 第4章 集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	
	1					
	2		第5章 データの分析	13		
	3	学年末考査				
備考：			合計	105		

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2単位
対象学年	1年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 第3章 整数の性質				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	主体的に学習に取り組む	思考・判断・表現			知識・技能
	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。			場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する			テスト及び課題により総合的に評価する
教科書、教材など	教科書 改訂版 新高校の数学A(数研出版) 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学A (数研出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1章 場合の数と確率	第1節 順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	検査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5					
	6	1学期中間考査				
	7		第2節 確率			
	8	1学期期末考査				
	9	第2章 図形の性質	第1節 平面図形	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	10					
	11	2学期中間考査				
	12		第2節 空間図形			
	1	2学期期末考査				
	2	第3章 整数の性質	整数の性質	20	整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	3					
備考：		合計	70			

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	日常生活と社会との関連を図りながら物理の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動とエネルギー さまざまな物理現象とエネルギー 				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	授業への取り組み 板書、発表 意思表示	テスト 課題	観察・実験への取り組み 実験レポート	テスト 課題	
教科書、教材など	「改訂 物理基礎」(東京書籍)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画						
学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 速さと等速直線運動 直線運動の加速度 落体の運動 力とつり合い 	5	<ul style="list-style-type: none"> 運動を変位-時間のグラフや速度-時間のグラフで表し、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。また、合成速度や相対速度について理解する。また、加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析できるようになる。 	活動 実験 レポート 板書 発表 宿題 考査 の成 績を 総合 して 評価
	5	さまざまな力とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 運動の法則 さまざまな運動とはたらく力 	6	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身に付け、それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。また、力の合成や分解をベクトルで扱えるようになる。 慣性の法則、運動の第二法則、作用反作用の法則について理解する。 物体が空中を落下する際の運動の特徴、及び物体にはたらく力と運動の関係について理解し、鉛直の落下運動、水平投射、斜方投射について式を使って扱えるようになる。また、摩擦力、及び液体や気体から受ける力(圧力、浮力、抵抗力)について理解し、それらがはたらくときの物体の運動を分析できるようになる。 	
	6	力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 	8	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。 仕事をする能力としての位置エネルギーと運動エネルギーの表し方について理解する。 力学的エネルギー保存の法則を用いていろいろな運動を分析できるようになる。 	
2	8	熱	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度 熱の利用 	7	<ul style="list-style-type: none"> 原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。さらに、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱(融解熱、蒸発熱)について理解する。 熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。 仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第1法則について学び、さらに、熱機関とその熱効率、及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。 	
	9	波	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質 	5	<ul style="list-style-type: none"> 波の基本的な性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。また、横波と縦波の違いを理解する。さらに、波の伝わり方について、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。 	
3	10	電気と磁気	<ul style="list-style-type: none"> 音と振動 電流と電気抵抗 	8	<ul style="list-style-type: none"> 波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。 うなり、固有振動、共振、共鳴などについて理解する。 抵抗の違いを抵抗率で表せることを理解する。また、導体、半導体、絶縁体に区分できることを理解する。さらに、合成抵抗を求めることができるようになる。 	
	11			8	<ul style="list-style-type: none"> 電流のエネルギーについて、電力と電力量を計算で求められるようになる。 	
	12			8	<ul style="list-style-type: none"> 右ねじの法則を学び、電流による磁界について理解する。 	
	1			5	<ul style="list-style-type: none"> 電流が磁界から受ける力について学び、モーターの原理を理解する。さらに、モーターと発電機についてエネルギー変換の立場から理解する。 	
	2	交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> 交流と直流の違いを理解し、送電における交流の利点を知る。 電磁波について学び、現代の社会生活に利用されていることを知る。 放射線及び原子力の利用とそれに伴うリスクについて、理解を深める。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 近い将来に直面するであろうエネルギー問題について関心を持ち、その解決のために必要とされる基本的な科学知識や態度を身につける。 	
3	3	エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなエネルギー エネルギーの利用 	5		
備考:			合計	70		

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を裏証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・授業への取り組み ・板書・発表 ・意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など	生基 318 「改訂版 生物基礎」 「セミナー生物基礎+生物」第一学習社				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 中間考査	地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であること、生物の共通の祖先、多様化のこと、生物が共通にもつ特徴、細胞には原核細胞と真核細胞があることについて理解する。	7	真核細胞において、核・細胞膜・細胞質基質・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁の構造と機能の概要。 代謝には同化と異化がある、ATPが関わっている。酵素の基本的な特徴 光合成は、光エネルギーによって有機物を合成する過程である。 呼吸は、ATPがつけられる過程であること。共生説の考え方。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	5	2. 細胞とエネルギー		8		
	6	期末考査				
2	7	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造	ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくDNAの二重らせん構造について間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解腎臓の働きによって、体液中の塩類などの濃度が保たれている。 無脊椎動物、魚類の体液の濃度調節について。 生体防御について。 免疫のしくみ。 白血球の食作用・抗体の特徴について理解 リンパ球による抗原認識、免疫寛容 獲得免疫は自然免疫によって誘導 排除の流れを理解する。DNAを抽出する	6	DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)流れを理解する。 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 血液の働きと恒常性について理解する。 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 ・二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。 ・自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 ・アレルギーや自己免疫病、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 ・免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法 <small>のしくみ</small> 、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	8	2. 遺伝情報の複製と分配 中間考査		7		
	9	3. 遺伝情報とタンパク質の合成		6		
	10	第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き		6		
		2. 体内環境の維持のしくみ		6		
		3. 生体防御 期末考査		6		
3	11	第4章 バイオームの多様性と分布 1. 植生と遷移	気温と降水量でバイオームが成立している 世界のバイオームの種類と分布 日本のバイオーム分布と垂直分布、各バイオームの特徴的な植物種 ・身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し、野外で調査した植生と一致するかどうか確認する	6	植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・森林には階層構造がみられ、階層によって光環境が異なることを理解する。 ・遷移のモデル・バイオームの概念を理解し、その地域に生育する植物を基盤としたバイオームが成立することを理解する。 ・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	12	2. バイオームとその分布		7		
	1	第5章 生態系とその保全 1. 生態系		5		
		2. 生態系のバランスと保全 学年末考査				
		2				
		3				
備考	合計			70		評価 テスト

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
対象学年	第1学年総合調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
学習内容の概要	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の物事・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探るとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の物事・現象の中の問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の物事・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の物事・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など	啓林館「科学と人間生活」(科人302) 啓林館「サンダイヤル 科学と人間生活の学習ノート」				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時 間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4 5 6 7	序章 科学技術の発展 第1部 生命の科学 第1章 生物と光 中間考査 第2章 微生物とその利用 期末考査	科学技術の進歩・発展が人間生活に果たしてきた役割を学ぶ。 植物の育成と光、ヒトの視覚と光、動物の行動と光について学び、生物の活動と光との関係を理解する。 様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生活について学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。	3 7 7	植物の生育と光 光合成色素の分離 ヒトの視覚と光 錯視の体験 動物の行動と光 微生物の存在 微生物の観察 生態系における微生物 アルコール発酵 微生物と人間生活	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
2	8 9 10 11	第2部 物質の科学 第1章 食品と衣料 第2章 材料とその再利用 中間考査 第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 第2章 熱の性質とその利用 期末考査	食品、衣料、染料、洗剤などについて学び、その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。 プラスチック、金属、セラミックスがそれぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。 光の性質とその利用、電磁波について学び、どのように利用されているかを学習する。 熱の性質とその利用、エネルギーについて学び、エネルギーの移り変わりなどについて理解する。	8 8 8 8	食品の科学 衣料の科学 セッケンの合成と性質 プラスチック 金属 セラミックス 光とは何か 光の性質 電磁波とその利用 熱とは何か エネルギーの利用	
3	12 1 2	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 身近な天体と太陽系における地球(14) 第2章 自然景観と自然災害 終章 これからの科学と人間生活 学年末考査	身近な天体の姿や運行について学び、天体やその運行と人間生活との関係について理解する。 地球の活動と、人間と自然のかかわりを学び、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解する。	8 8 5	太陽系の中の地球 太陽と人間生活 天体の運行と人間生活 地震による景観と災害 火山の景観と災害 流水の作用によるけいかん災害	
備考	合計			70		評価テスト

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2単位
対象学年	第1学年特進調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	1 学期…体づくり運動、バドミントンを行なう。 2 学期…バスケットボール、ソフトボールを行なう。 3 学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。	
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など					
授業形態	2クラス合同				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	体育理論	体育理論	5	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
	5	体力測定	基礎体力の測定	5	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体づくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	6	球技	体操・補強運動	3	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラクセスして伸ばす。	
			体ほぐし運動	3		
	7	球技	バドミントン	13	・ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。 ・5つの基礎を使い分けながらラリーができる。	
			期末考査			
	8	球技	ソフトボール	13	・ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。(守備) ・バットの握り方、バッティングの修得をする。(打撃) ・ゲームのなかで(守備)(打撃)の基礎を使い分ける。	
	10	球技	バスケットボール	13	・ドリブル、パス、シュートを修得する。 ・3つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。	
12	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏み込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。		
					1	バレーボール
3	1	学年末考査				
					2	バレーボール
	3					
備考:	合計			70		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3単位
対象学年	第1学年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付ける。				
学習内容の概要	1学期…体づくり運動、パドミントンを行なう。 2学期…バスケットボール、ソフトボール、サッカーを行なう。 3学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで積極的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫して生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など					
授業形態	1クラスの授業(女子のみ)				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	単元 の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	体育理論	体育理論	6	<ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。 走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。 集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。 筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。 ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。 5つの基礎を使い分けながらラリーができる。 ドリブル、パス、シュートを修得する。 3つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。 ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。(守備) バットの握り方、バッティングの修得をする。(打撃) ゲームのなかで(守備)(打撃)の基礎を使い分ける。 パス、ドリブル、キックを修得する。 3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。 パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。 	
	5	体力測定	基礎体力の測定	6		
	5	体づくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	3		
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動 体育理論	4		
	7	球技	バドミントン	1.7		
	2	8	バスケットボール	1.7		
	9		ソフトボール	1.7		
	10		サッカー	1.7		
	3	1	球技	バレーボール		1.7
	3	1	学年末考査			
備考:			合計	105		

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというへ、プロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。				
学習内容の概要	現代社会と健康 1学期…健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防 2学期…精神の健康、交通安全 3学期…応急手当				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	健康の保持増進に必要な事柄について関心をもつこと、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考えて判断できる。		健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践することや環境を改善していく努力が必要であることを理解する。健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など	・最新高等保健体育・最新高等保健体育ワーク				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	健康の考え方 健康の保持増進と疾病の予防	・健康の考え方と成り立ち	2	<ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方が変化していることを説明できる。健康を成り立たせている要因をあげることができる。 生活習慣病の例をあげることができ、なぜ生活習慣病と呼ばれるかについて説明できる。生活習慣病の予防方法を説明できる。 健康にとつての食事の意味について説明できる。健康的な食事のポイントをあげることができる。 喫煙者やその周囲の人に起こる害を説明できる。喫煙に対する日本や世界の対策の例をあげることができる。 飲酒による健康への短期的影響、長期的影響を説明できる。飲酒による健康問題に対する個人や社会環境問題への対策の例を挙げることができる。 薬物乱用が心身の健康や社会に与える影響について説明できる。薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策の例をあげることができる。 性感染症とは何かを説明できる。性感染症、エイズの予防対策について、個人と社会に分けて説明できる。 人間の欲求の種類を説明できる。欲求不満に対処するための適応機種の例をあげることができる。 心と体の働きが相互に影響しあう関係について例をあげて説明できる。ストレスの心理、社会的要因と物理的要因の例をあげることができる。 若者の交通事故の特徴を説明できる。交通事故の発生に関係する要因を、例をあげて説明できる。 運転者に必要な資質と責任を説明できる。安全な交通社会づくりのための対策を、例をあげて説明できる。 適切な応急手当の意義を説明できる。傷病者を発見したときに、確認、観察するポイントをあげることができる。 日常的なけがの応急手当の手順や方法を説明できる。熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。 人工呼吸、胸骨圧迫、AEDによる除細動の原理と意義を説明できる。心肺蘇生法の各手順のポイントをあげることができる。 	
			・生活習慣病とその予防	3		
			・食事と健康	2		
			・喫煙と健康	2		
	5	精神の健康	・飲酒と健康	2		
			・薬物乱用と健康	3		
	6	精神の健康	・性感染症、エイズとその予防	2		
			・欲求と適応機制	2		
	7	精神の健康	・心身の相関とストレス	2		
			・交通安全	3		
8	交通安全	・交通事故の現状と要因	3			
		・交通事故を防ぐために	3			
9	応急手当	・応急手当の意義とその基本	3			
		・日常的な応急手当	3			
10	応急手当	・心肺蘇生法の原理とおこないかた	3			
2	8	精神の健康	・性感染症、エイズとその予防	2		
	9	精神の健康	・欲求と適応機制	2		
	10	精神の健康	・心身の相関とストレス	2		
	11	交通安全	・交通安全	3		
	12	応急手当	・交通事故を防ぐために	3		
	1	応急手当	・応急手当の意義とその基本	3		
	2	応急手当	・日常的な応急手当	3		
	3	応急手当	・心肺蘇生法の原理とおこないかた	3		
備考：			合計	35		

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術文や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	A. 表現 1 歌唱 2 器楽 3 創作 B. 鑑賞 1 鑑賞				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
	曲想と音楽の構造や文化的、歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント		
教科書、教材など	MOUSA1 (教育芸術社)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	週	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	正しい発声法を身につけよう (A. 表現・歌唱) イタリア歌曲を歌おう (A. 表現・歌唱) オーケストラを知ろう (B. 鑑賞) ポディーパーカッションに挑戦しよう (A. 表現・器楽) 表現を工夫してギターを演奏しよう (A. 表現・歌唱) 鑑賞しよう 表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう (A. 表現・歌唱) 世界の諸民族の音楽に親しまおう (B. 鑑賞) 三味線に親しまおう 鑑賞しよう 創作に挑戦しよう (A. 表現・創作) 混声合唱の響きを味わおう (A. 表現・歌唱)	・発声練習 ・リトミック ・校歌 ・アヴェマリア ・カーロ ミオ ベン ・チェリー (副教材) ・サザエさん モーツァルトについて ・さくら ・ ・ベートーベンについて ・五音音階の種類と楽曲の特徴 ・旋律創作の手順と方法 ・ゆめみたものは ・ぼくはぼく	4	・姿勢や呼吸法に気を付けて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージを持って歌う	観察 実技試験 学習プリント 学習プリント 観察・聴取、実技試験 学習プリント 観察・聴取 学習プリント 観察・聴取、実技試験 学習プリント 学習プリント 観察・聴取
	5			8	イタリア語の語感を生かして、発音やフレーズの歌い方などを工夫しながら、楽曲にふさわしい表現を追求して独唱する演奏者による表現の特徴とその違いを理解する。	
	6			4	・オーケストラについての知識を深める。	
	7			4	・音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	
	8			8	・ギターの音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する。歌い弾きができるようにする。	
	9			4	・作曲家の生涯をたどり、作品の特徴を聴きとる。	
	10			8	・アンサンブルにおける自分の役割にふさわしい表現方法を探求する。	
	11			4	・世界の諸民族の音楽における声や楽器の音色や表現の特徴を捉え、多様な表現による音楽美を感じ取って鑑賞したり表現したりする。	
	12			6	・三味線の音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する	
	1			4	・作曲家の生涯をたどりながら、作品の特徴を聴きとる。	
	2			8	・音階を選んで旋律をつくり、それにもう一つの旋律をつくって重ねる。	
	3			8	・各パートの役割や音の重なり方などを理解して、楽曲にふさわしい表現や響きを追求する。	
備考:	合計		70			

教科名		芸術		科目名		美術 I		単位数	2 単位
対象学年		第 1 学年		履修形態	選択必修	科目コード			
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
学習内容の概要		(1) 絵画・彫刻 (2) デザイン (3) 映像メディア表現 (4) 鑑賞							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		知識・技能(技術)【知】		思考・判断・表現【思】		主体的に取り組む態度【態】			
		・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
評価方法		観察・聴取 学習プリント		観察・聴取 実技試験		観察・聴取 実技試験 学習プリント			
教科書、教材など		高校生の美術 1 (日本文教出版)							
授業形態		一斉授業							
年間授業計画									
学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法			
1	4	デザイン	・ イラストレーション (自己紹介カード)	6	・ レタリングの基礎、イラストレーションを通しての自己表現を工夫する。	観察 実技試験			
	5 6 7	絵画、鑑賞	・ 身近な物を描く ・ 鑑賞	4					
	8	デザイン	・ 色彩理論 (色の分類やしくみ) ・ 色彩構成 (色と形の響き合い)	14	・ 色や形の基礎を学び構成力や色感を身につける ・ 色の分類、配色、美的秩序について学ぶ	学習プリント			
	9 10	立体構成	・ 紙による立体構造(地域のよさをパッケージの形に)	14	・ 目的と機能、役割を考慮してデザインを工夫する。 ・ 素材の特性を活かした機能的で創造的な表現を工夫する。	観察・聴取 実技試験			
	11 12	映像メディア表現	・ プレゼンシート制作	8	・ 視覚伝達効果のある表現、映像メディア機材を用いた表現方法を理解する。	学習プリント			
	1 2	絵画	・ 版画制作(ドライポイントで表現)	14	・ 版画表現の多様性を、版種を学ぶ。 ・ 版画表現の独特な技法や面白さを味わう。	観察・聴取 実技試験			
	3	多様な表現(平面)	・ 様々な表現方法 (自分の心の空、心の風景)	10	・ 素材や材料、用具の特性を活かした表現方法をくふうして表現する。	学習プリント			
							観察・聴取		
	備考:			合計	70				

教科名	芸術	科目名	書道 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	A. 表現 1 漢字仮名混じり書 2 漢字の書 3 仮名の書 4 創作 5 篆刻 B. 鑑賞 1 書の高さと表現効果 2 中国および日本の文化				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	・書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい捉えたりすることができるようにする。	・主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
評価方法	・表現の意図、構想、表現の工夫の取り組みの記録 (ワークシート等)	・表現を工夫して表した成果 (作品)	・作品制作への取り組み状況 (活動の様子) ・学習活動への参加状況 (出席状況・学習態度・意見発表等)		
教科書、教材など	東京書籍「書道 I」				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4 5 6 7	書写で学んできたこと 漢字の書の学習	楷書の臨書と鑑賞 行書の臨書と鑑賞 草書の臨書と鑑賞 漢字仮名交じりの書	4	・中学までの学習を振り返り、書写と書道の共通性と相違を理解する。	作品
				12	・漢字の書の変遷について学ぶ。	
				8	・漢字の古典の鑑賞により、多様な表現を理解し、鑑賞力を深める。	
				8	・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。	
				8	・草書に親しみ、古典の臨書学習により、草書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
2	8 9 10 11 12	篆刻 生活に広げる	篆刻 実用書	6	・姓名印を作成し、創作作品に押印する。	学習プリント 年賀状
				4	・年賀状や手紙文の書き方を学ぶ。	
				6	・隷書に親しみ、古典の臨書学習により、隷書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
3	1 2 3	仮名の書の学習	仮名の書の展開	6	・篆書に親しみ、古典の臨書学習により、篆書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	作品
				6	・篆書に親しみ、古典の臨書学習により、篆書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
				8	・仮名の書の変遷について学び、日本の伝統美を理解し表現する。	
備考:			合計	70		

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つことができる。 英語を通じて、世界情勢、伝統文化、教育、環境、ボランティア、科学、スポーツ、資源、経済、戦争・平和などの話題に関する情報や考えなどを明確に理解することができる。 英語を通じて、世界情勢、伝統文化、教育、環境、ボランティア、科学、スポーツ、資源、経済、戦争・平和などの話題に関する自分の考えや概要などを適切に伝えることができる。 言語の使用場面や目的に合わせて、語彙・文法事項を適切に運用することができる。 				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
	コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、その言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。	
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト（音読テスト、writingテストなど） 定期考査（中間考査、期末考査） 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト（対話テストなど） 定期考査（中間考査、期末考査） 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（中間考査、期末考査） 	
教科書、教材など	Genius English Communication I Revised (大修館)、学習ノート ユメタン0、1 (アルク)				
授業形態	習熟度				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	単元 の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	L.1A Village of One Hundred	<ul style="list-style-type: none"> ユメタン音読、単語練習 本文内容理解 ワーク 本文要約 文法事項の確認、練習 本文音読 小テスト（文法・単語） 意見発表 リスニング ユメタンテスト（各ユニット毎） 	9	<ul style="list-style-type: none"> 人類が直面する教育格差、富の偏在、環境破壊などについて理解を深め、これらの問題にいかに対応すべきか考える。to不定詞 itの用法 中学校の文法事項の復習 風呂敷を題材にして日本文化についての理解を深める。 関係代名詞、助動詞、受動態 社会を変えようとした十代の若者の勇気と行動力について学ぶと同時に教育の重要性について考える。 現在完了進行形、過去完了形、動名詞 環境破壊の問題を多角的に考え、理解を深める。 分詞、助動詞、比較 命の尊さ、人生の意味、ボランティアの大切さを考える。 原形不定詞、SV0+if節、itの用法 意志力を高める鍵となる睡眠に焦点を当て、人間の脳や心理との関係について考える。 受動態、関係副詞、助動詞+have+過去分詞 スポーツ及び男女差別について 過去完了進行形、動名詞の意味上の主語、分詞 水不足解消のための科学技術について 仮定法過去、関係代名詞、seem to フェアトレードについて 分詞構文、未来完了 命の尊さと歴史を学ぶ重要性 仮定法過去完了、前置詞+関係代名詞 	提出課題 小テスト 定期考査 授業態度等を総合して評価
	5	中学の総復習 中間考査		7		
	6	L.2 More Than Just a Piece of		9		
	7	期末考査		1		
	8	L.3 I am Malala		9		
	9	L.4 Borneo's Moment of Truth		9		
	10	L.5 Alex's Lemonade Stand 中間考査		1		
	11	L6 Willpower and speed		9		
	12	L7 Mother of women's Judo 期末考査		9		
	1	L8 Water Crisis		10		
2	L9 Coffee and Fair Trade	10				
3	L.10 Life in a Jar 学年末考査	1				
備考:		合計	105			

教科名	英語		科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4単位
対象学年	1総合		履修形	必修	科目コード	
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その課程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。					
学習内容の概要	〔知識及び技能〕(1)英語の特徴やきまりに関する事項 ア音声 イ句読法 ウ語、連語及び慣用表現 エ文構造及び文法事項〔思考力、判断力、表現力等〕(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(3)言語活動及び言語の働きに関する事項①言語活動に関する事項②言語の働きに関する事項					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知識・技能		思考力・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
評価方法	・小テスト ・定期考査(中間考査・期末考査)		・小テスト(音読テスト、writingテストなど) ・定期考査(中間考査、期末考査)		ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	
教科書、教材など	VISTA English Communication I(三省堂)、VISTA English Communication I work book(三省堂) ユメタン(0)アルク					
授業形態	一斉、グループワーク					

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	Get Ready!	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・文法事項の確認、練習 ・本文音読	3	・アルファベット、単語の書き方、辞書の引き方、教室での英語の使用を理解する。 ・主語、be動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞について理解し、言語活動へつなげる。 ・be動詞、一般動詞の現在形に関する事項の確認。 ・春について、理解を深める。 ・be動詞、一般動詞、現在形に関する事項の確認。 ・ディック・ブルーナさんについて、理解して考えを深める。 ・進行形に関する事項の確認。 ・過去の行動について、意見を交換する。 ・助動詞、動名詞に関する事項を理解する。 ・趣味について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。 ・不定詞に関する事項を理解する。 ・ポスターの提案理由について、基本的な語句や文を用いて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・現在完了形に関する事項を理解する。 ・マチュピチュについて理解する。 ・旅行について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。 ・受け身に関する事項を理解する。 ・AIについて理解する。 ・AI製品について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・関係代名詞に関する事項を理解する。 ・サンタクロースについて理解する。 ・ポスターについて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・分詞、関係代名詞に関する事項を理解する。 ・場所の説明、メールの質問への返事について用いて、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報を書く。 ・比較の表現に関する事項を理解する。 ・エシカルファッションについて理解する。	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	5	のちゃんの英文法				
	6	Lesson1 Colors of Spring 中間考査				
	7	Lesson2 Dick Bruna 期末考査				
	8	Lesson3 Interesting Sports				
	9	Lesson4 Pictogram Lesson5 We Are Part of Nature 中間考査				
	10	Lesson6 Machu Picchu				
	11	Lesson7 Artificial Intelligence 期末考査				
	12	Lesson8 Is There a Santa Claus?				
	1	Lesson9 Kid's Guernica				
2	Lesson10 Ethical Fashion 学年末考査					
3						
備考:	合計		140			

教科名	英語	科目名	論理・表現 I	単位数	2単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(①)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。				
学習内容の概要	〔知識及び技能〕(1)英語の特徴やまきりに関する事項(ア)目的や場面、状況などに応じた理論の構成や展開(イ)情報や考えなどを効果的に伝える表現 〔思考力・判断力・表現力等〕(2)情報を整理しながら考えを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(3)言語活動及び言語の働きに関する事項(2)に示す事項については(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して指導する。ア話すこと〔やり取り〕イ話すこと〔発表〕ウ書くこと				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。		
評価方法	・小テスト(復習テスト) ・定期考査	・スピーチ、presentation, writingプリントなど ・定期考査	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・定期考査(中間考査、期末考査)の 考査平均点×0.8	
教科書、教材など	CROWN Logic and Expression I (三省堂) 総合英語FACTBOOK、English Grammar(桐原書店)				
授業形態	一斉、グループワーク、プレゼンテーション				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
4	5	Bridge Lesson	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットセンテンスのリスニング・音読 ・文法練習 ・練習問題 ・中学校復習テスト ・プレゼンテーション ・ショートスピーチ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の英文法の復習 	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
		Lesson1 OriHime				
	6	Lesson2 Breakfast Makes Perfect		6	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢についてスピーチを行う。 ・can, may, must, shouldの用法について理解を深める。 	
		Lesson3 Cool Japan		6	<ul style="list-style-type: none"> ・「理想の食事メニュー」について表現し、プレゼンテーションを行う。 ・受動態についての理解を深める。 ・「Cool Japan」について表現し、記事を書く。 	
	7	Lesson4 Save Our Planet		6	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞の3用法について理解を深める。 	
		8		Lesson5 Volunteer work for What?	4	
	6				<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞についての理解を深める。 ・「高校生はボランティアをすべきかどうか」について表現する。 	
	9	Lesson6 Another Life I Might have Had		5	<ul style="list-style-type: none"> ・分詞の用法について理解を深める。 ・「おすすめの小説」について表現する。 	
		10		Lesson7 What Is Our Greatest Invention?	5	
	4				<ul style="list-style-type: none"> ・「人類最大の発明品について表現する。 	
11	Lesson8 Discover Japan	<ul style="list-style-type: none"> ・特別授業> 地元の名所を英語で説明し、旅行プランを立てる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・関係詞の用法について理解を深める。 		
			5	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人にすすみたい日本の場所について書く。 		
12	Lesson9 Urban Life or Rural Life	<ul style="list-style-type: none"> ・特別授業> 地元の名所を英語で説明し、旅行プランを立て、プレゼンをする。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定法について理解を深める。 		
			4	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と田舎の生活について表現する。 		
1	Lesson10 Music Without a Pianist		5	<ul style="list-style-type: none"> ・接続詞について理解を深める。 		
			5	<ul style="list-style-type: none"> ・将来つきたい職業について書く。 		
2						
						3
備考:	合計:	70				

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年 調理科	履修形態	必修	科目コード	701
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				
学習内容の概要	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的に取り組んでいる。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的な技術を身につけている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的、基本的な知識を身につけている。	
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(プリント、ワークシート)	・記述の確認(プリント、ワークシート) ・定期考査	
教科書、教材など	東京書籍 「家庭基礎」				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	生涯を見通す	人生を展望する 目標を持って生きる	8	・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・家族・家庭に関する法律と現在の社会の状況を理解する。 ・家事労働・職業労働について知り、ワークライフバランスを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	提出課題・授業取組・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	人生をつくる	人生をつくる 家族・家庭を見つめる 命を育む	8		
	6	子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知る 子どもと関わる 子どもとの触れ合いから学ぶ これからの保育環境		8	
	7	超高齢社会を共に生きる	超高齢・大衆長寿社会の到来 高齢者の心身の特徴 これからの超高齢社会	8	・高齢者の心身の変化や生活の特徴を理解する。 ・高齢者に関する福祉についてと制度と課題を考える。	
	8	共に生き、共に支える	私たちの生活と福祉 社会保障の考え方 共に生きる	8	・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。	
	9	衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する これからの住生活	10	・被服の機能を理解し、健康で快適な着装について考える。 ・購入、再利用、破棄などを考慮に入れた衣服の必要性を理解する。	
	10	住生活をつくる	住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画 これからの住生活	6	・住居の機能や間取りについて理解する。 ・室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。	
2	11	経済生活を営む	職業生活を設計する 計画的に使う 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 現代の消費社会 消費者の権利と責任 これからの消費生活と環境	6	・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・生活と環境との関わりについて理解する。 ・持続可能な消費について理解する。 ・目指すライフスタイルを考え、高校卒業の生設計を立てる。	
	12	継続可能な生活を営む これからの生活を創造する	生活をデザインする	6		
	1	食生活をつくる	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 これからの食生活	10		
3	2	食生活をつくる	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 これからの食生活	10	・自分自身の食生活を振り返り、問題点を考える。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	
	3	学年末考査				
備考:			合計	70		

教科名	家庭科	科目名	公衆衛生	単位数	1単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	一斉	科目コード	
科目の目標	健康の保持・増進に寄与する食生活の重要性を認識し、わが国の健康の現状とともに、調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について理解することを通して、調理師が果たすべき役割を理科する。				
学習内容の概要	素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保全全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。	
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価	
教科書、教材など	1 食生活と健康 (社会法人全国調理師養成施設協会)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	1 調理師と健康	健康の考え方	10	健康とは何か、わが国の健康水準、目指すべき健康とは	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査				
	6		食と健康の関係		健康的な小生活づくり	
	7	期末考査			調理師の成り立ち 調理師法の概要	
	8		調理師の役割			
	9			15	食生活における調理師の役割	
	10	2 食生活と疾病	疾病の動向とその予防		疾病の動向、疾病の予防	
	11	中間考査				
	12		生活習慣病		生活習慣病とは 生活習慣病の国際比較と生活習慣の重要性 生活習慣病の予防	
	1	3 健康づくり	健康づくり対策	10	疾病予防から健康増進へ 健康増進法	
	2					
	3	学年末考査	1年間のまとめ			
備考：			合計	35		

教科名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	1単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらす、場合によっては生命を左右することがあるためこれを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	
教科書、教材など	食品衛生学（全国調理師養成施設協会）				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	食の安全と衛生 食品と微生物	食の安全を守る 安全を脅かす要因 安全確保の仕組み	15	時代を超えて共通する脅威は食中毒であることで 細菌やウイルスなどの微生物が占めている事 を学び理解させる	観察 考査
	5	中間考査	食品衛生とは		WHOの定義による食の安全、食品衛生の概念を 学び理解させる	
	6		食品中の微生物、腐敗		微生物は細菌、リケッチア、酵母、カビ、ウイルス、 原虫などを学び理解させる	
2	7	期末考査			微生物が腐敗にどのように関わるか学び理解さ せる	
	9	中間考査				
3	10	食品と化学物質 器具、容器包装 の衛生	食品添加物、重金属 放射線物質 器具、容器包装 の概要	10	添加物の定義やヒ素、重金属、有毒元素や放射性 物質がどのように食品に関わり影響するかを学 び理解させる	観察 考査
	11	期末考査				
	12					
	1	飲食による健康 危害	健康危害の種類 食中毒の概要	10	飲食により健康が脅かされる原因を学び理解さ せる	観察 考査
	2					
	3	学年末考査				
備考：			合計	35		

教科名	家庭科	科目名	食品	単位数	1単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	一斉	科目コード	
科目の目標	「調理師」を名乗る人には、それだけ重要な社会的使命が与えられていることを理解する。				
学習内容の概要	食品の特性を知り、美味しく安全な食事を提供し、健康の維持増進をはかる。食の安全を確保する。調理技術や調理様式を受け継ぎ、さらに新たな調理法を創造し、文化継承の役割を担う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保全全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。	
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価	
教科書、教材など	2 食品と栄養の特性 (社会法人全国調理師養成施設協会)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	単元	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	食品の特徴と性質	植物性食品とその加工品	10	穀類	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5				いもおよびでんぷん類 砂糖および甘味類	
	6				豆類、種実類、野菜類	
	7	期末考査	動物性食品とその加工品	15	果実類、	
	8				きのこ類、藻類	
	9				魚介類、食肉類	
	10	中間考査	その他の食品	10	卵類、乳類	
	11				油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調味料および香辛料類 調理加工食品類	
	12				ゲル状食品、特別用途食品、保健機能食品	
	1	学年末考査	食品の加工と貯蔵 食品の生産と流通	10	食品の加工、食品の貯蔵	
	2				食品の国内生産と輸入 食品の流通	
	3					
備考：			合計	35		

教科名	家庭科	科目名	調理(実習)	単位数	4単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	必須	科目コード	
科目の目標	調理師を目指すにあたり必要な実践的な技術、知識の基礎を学ぶ。包丁の研ぎ方、握り方にはじまり、だしの取り方など基礎をしっかりと学ぶ				
学習内容の概要	正しい服装、みだしなみをして、基礎的な調理技術や衛生観念について学び、調理の楽しさを実感できるように包丁・食材・器具に触れる時間を作る。基礎的な事の反復実習を行い基礎技術の習得をする。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	実習や授業に向かう態度や動きが良好で、食材や料理に対する関心を持っている。	試食や味の違いについて研究している。 実習中に味の濃い薄いについて調整している。 進行状況を把握し、時間をみて動いている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく盛れている。	行程や切り方をはじめ、包丁の使い方、扱い方が正しく使っているか。 切り方の呼び方などを把握している。	
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する。	
教科書、教材など	新調理師養成教育全書 必修編 調理実習、調理実習レシピなど				
授業形態	一斉、班別学習				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4	① 調理実習を行うにあたって	調理実習の心得 衛生的な習慣	4	<ul style="list-style-type: none"> 調理師として正しい服装、姿勢を理解する。 手洗い、身だしなみをきちんとする。 和、洋の包丁の名前、部位を理解する。 鍋などの器具の名前や調理器具の名称を理解する。 包丁の研ぎ方、砥石の使い方、管理の仕方を理解する。 料理の基礎となる出汁の取り方を理解する。 桂剥きなどを練習し、手首の安定をめざし包丁の扱いになれる。 出汁やフォン、ブイヨンを使い、火加減や食材の性質にあわせて調理し特性を理解する。 製菓の器具の使い方、基本の切り方について理解する。 器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。 魚の下処理を理解し、調理に見合った切り方を反復練習する。 刺身、焼き魚等 講師を招いて中華料理の技法、食材、香辛料について専門的に学ぶ。 油の温度の違いによる加熱の具合や食感などの変化について理解する。 蒸し器の使い方にあわせた食材の下処理の仕方や火加減について理解する。 オーブンの使い方、製菓の器具の使い方を理解しながら卵や粉製品に特性を理解する。 器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。 料理のあしらいやガル二作りを季節を意識しながら包丁を使って仕上げる。 季節を意識しながら煮炊きする火加減、味加減を学び、食材に合わせたソースの作り方を理解する。 一年間を通して学んだ事を復習する。 器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。 	授業中の行動、取り組み方の観察や技術審査などにより評価する。	
		5	② 器具包丁などの名称	包丁の種類 器具の名称			4
	6	③ 包丁の研ぎ方	砥石を使って研ぐ	4			
		④ だしの取り方	一番だしを引く	10			
	6	⑤ 包丁の使い方	野菜の刻み方	6			
		⑥ だしを使った料理	だし巻き卵 野菜のポタージュ	4			
	7	⑦ スイーツの基礎	クレープ生地	2			
		⑧ 大掃除	フルーツのカット 鍋磨き	2			
	2	8	⑨ 魚のおろしかた	魚の処理の基本			20
			⑩ 魚を使った料理	・水洗い ・三枚おろし ・大名おろし			8
	10	11	⑩ 中華飾り切りなど	中華の食材の切り方			8
			⑪ ゲストティチャーを招いて	調味料や香辛料について			
	12	⑪ 揚げ物	油の温度調節	14			
		⑫ 蒸し物	蒸し器の使い方 適正な大きさ切る	14			
12	⑬ スイーツ	焼き菓子	14				
	⑭ 大掃除	鍋磨き	2				
3	1	⑮ 包丁の技術向上	飾り切り 野菜の下処理	8			
		⑯ だしを使った料理	煮物 ソース作り	14			
2	⑰ 復習	一年間の復習	8				
	⑱ 大掃除	鍋磨き	2				
備考:			合計	146			

教科名	家庭科	科目名	調理(理論)	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	調理に関心を持ち、多岐にわたる見識と教養の充実を取り組んでいる。	調理について思考を深め、基礎・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、その結果を的確に表現する。	調理に関する基礎・基本的な技術を身につけ、実践的な技術を身につけ、実健実習を合理的に計画し、創意工夫する能力を身に付けている。	調理に関する基礎・基本的な知識を身につけ、調理師の社会的使命を理解している。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察 課題の提出など。	授業中の話し合い、発表、 定期考査、小テストなど	実習と理論の関連を評価	定期考査、小テストなどによる評価	
教科書、教材など	調理理論と食文化概論 (全国調理師養成施設協会)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	調理とおいしさ	調理とは。 おいしさの構成	15	調理の基礎的な理論として調理の目的を理解する	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査				
2	6	調理の基本操作	非加熱調理操作 計量、洗浄、浸漬 切碎、混合、磨砕、成形 冷却、冷凍、解凍	20	非加熱操作、加熱操作などの調理操作の方法と特徴を理解し応用することができる。 非加熱操作の特徴を理解する	
	7	期末考査				
	8		加熱調理操作		加熱操作	
	9		湿式加熱、乾式加熱 誘導加熱、誘電加熱		湿式加熱、乾式加熱の違いや特徴について理解する 誘電加熱、誘導加熱の違いを理解する	
	10	中間考査				
	11	食品の調理科学	穀類	20	食品の性質と調理による変化をとらえ、調理の要点を理解する 穀類の特徴について理解する	
3	12	期末考査				
	1		いもおよびでんぷん類	15	いもおよびでんぷん類の特徴について理解する	
	1		砂糖		砂糖の特徴について理解する	
3	2	学年末考査				
	3		豆類		豆類の特徴について理解する	
備考:			合計	70		